



中期経営計画の初年度になる2025年3月期の業績は、目標をやや上回る水準で進捗している。回復途上にある利益の確保に注力し、収益力が期待できる事業を展開し

道路舗装

大成ロテック

加賀田 健司 社長

## 建設事業の収益力強化

ていきたい。工事部門は基幹の道路建設事業をさらに収益が得られる体制としていく。

製造部門は原材料価格高騰分が販売価格に追いつきつつあるものの、依然として厳しい状況が続いている。カーボンニュートラル（CN）への対応も待ったなしだ。合材工場に中温化（低炭素）合材の製造装置を順次導入し販路拡大を図っていく。

時間外労働上限規制への対応は順調だ。23年に立ち上げた現場業務支援室が各種ITツールを活用し現場の補助業務を代行していることも、残業削減につながっている。

福島県田村市で建設中の「大成建設グループ大成ロテック次世代舗装実験走路」内環境を構築し、総合的なプロジェクトマネジメント力を実験走路が完成し、大型荷重車5台を自動運転により昼夜連続走行させる予定だ。大

成建設グループのシナジー（相乗効果）を発揮して、走路周辺にネイチャーポジティブ（自然再興）の要素を取り入れる計画もある。技術開発での連携も視野に入れ、公共発注機関や外部研究機関などにも活用してもらいたい。

建設業の仕事は人間力が大事。安心して活躍できる職場環境を構築し、総合的なプロジェクトマネジメント力を持つ人材育成に注力しエンジニアリングを高め、企業としての付加価値向上を目指す。

